

総 会 議 事

11月10日（日）

第1会場（1階 ホール） 13：00～13：20

1. 開 会
2. 会頭挨拶 広島医学会会頭 松 村 誠
3. 学会長挨拶 広島大学医師会長 伊 藤 公 訓
4. 広島医学会賞・楨殿賞・論文奨励賞受賞者選考報告 報告者 伊 藤 公 訓
5. 広島臨床外科医学会賞・奨学金受賞者選考経過報告 報告者 浅 原 利 正
6. 優秀ポスター賞，優秀ビデオ賞報告
7. 次期担当医師会決定
8. 次期学会長挨拶
9. 閉会

令和6年度「広島医学会賞」

広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 島谷 竜 俊

「新型コロナウイルス感染症流行下での救急搬送に影響を与えるリスク因子解析」

(広島医学76巻10号 341-345 2023掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

広島市立北部医療センター安佐市民病院循環器内科 島尻 寛 人

「山間僻地のPCI施行不可能な病院での心筋梗塞患者におけるDoor-In to Door-Out Timeの意義」

(広島医学77巻1号 5-9 2024掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

令和6年度「楨殿賞」

医療法人あかね会土谷総合病院消化器内科 田中 友 隆

「グルコン酸クロルヘキシジンが原因と思われた薬剤性食道炎の1例」

(広島医学77巻5号 161-165 2024掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

荒木脳神経外科病院放射線診断科 谷 為 恵 三

「非造影灌流MRIが治療評価に有用であった硬膜動静脈瘻による症候性脳静脈鬱血の1例」

(広島医学77巻6号 199-204 2024掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

令和6年度「論文奨励賞」

広島赤十字・原爆病院 田中 貴寛

「診断に難渋し胸腔鏡下肺生検で診断した浸潤性粘液性肺腺癌の1例」

(広島医学77巻3号 91-96 2024掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院 丸井 夏実

「胸部傍脊椎ブロックを用いて疼痛管理を行った多発肋骨骨折の2症例」

(広島医学77巻3号 100-104 2024掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

国立病院機構東広島医療センター 角 美里

「クロピドグレルによりインスリン自己免疫症候群を発症した1例」

(広島医学77巻7号 222-226 2024掲載)

(推薦者) 広島医学編集委員会

令和6年度「広島臨床外科医学会賞」受賞論文

広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 桑原 政志

「The 5-factor modified frailty index as a more useful associated factor than chronological age after unruptured cerebral aneurysm surgery: a nationwide registry study」

(推薦者) 広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 教授 堀江 信貴

広島大学大学院医系科学研究科消化器・移植外科学 佐伯 吉弘

「Intraoesophageal pressure in patients receiving proximal gastrectomy with hinged double flap method for gastric cancer: a retrospective cohort study」

(推薦者) 広島大学大学院医系科学研究科消化器・移植外科学 教授 大段 秀樹

令和6年度「広島臨床外科医学会奨学金」受賞

広島大学大学院医系科学研究科外科学 吉村幸祐

「過体重患者に対する下部消化管手術での術後感染予防抗菌薬投与レジメンの探究」

(推薦者) 広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋信也

広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 重松英朗

「早期乳癌に対するラジオ波焼灼療法が急性期の生活の質と炎症マーカーと腫瘍免疫能に与える影響を明らかにする前向き観察研究」

(推薦者) 広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 教授 岡田守人

広島大学大学院医系科学研究科人工関節・生体材料学 庄司剛士

「骨・血管誘導作用を有する新たな生体材料の開発」

(推薦者) 広島大学大学院医系科学研究科整形外科学 教授 安達伸生

特別講演（Ⅰ）〔日医認定産業医実地研修会〕

第1会場（1階 ホール） 13：20～14：20

座長 広島医学会会頭 松村 誠



「災害時の産業保健」

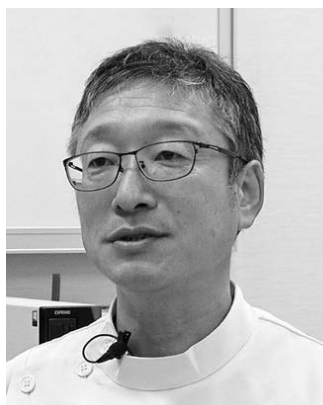
広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学教授 久保達彦

かつて災害対応者に対する産業保健サービスの意義が語られることがない時代があった。我が国において、この認識は東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故によって改められた。数千人の原発事故復旧作業員の健康管理は、文字通り国の命運を握った。現場で求められたのは傷病者を対象とした医療よりも、働ける程度に健康な作業員を対象とした組織的な健康管理、すなわち災害現場における産業保健体制の有効かつ迅速な構築であった。この応急的な取り組みは、その後、“災害産業保健”という分野の構築につながっていった。令和6年能登半島地震対応においてこの取り組みは、全国から被災地に参集した災害医療チーム等の隊員、そして被災自治体職員にも組織的に適応されていくこととなった。この被災自治体職員に対する取り組みで活用されたのは、実は広島県が新型コロナウイルス対応において整備したJ-SPEED電子システムであった。データに基づく災害時の産業保健介入を実現した同震災をJ-SPEEDデータによって概観しつつ、今後のオールひろしま災害対応に向けた展望を検討する。

特 別 講 演（Ⅱ）〔県民公開講座〕

第1会場（1階 ホール） 14：30～15：30

座長 第77回広島医学会総会学会長 伊藤 公訓



「やぶ医者が想う 幸せの医療 ～広島で総合診療医になる～」

広島大学病院総合診療医センターセンター長

北広島町雄鹿原診療所所長 東 條 環 樹

平成13年度、卒業後5年目で現在の勤務地である広島県の山間部、僻地診療所に赴任した。同診療所は無床で入院施設がなく、在宅療養が継続不能となった時点で他地域の医療機関に入院する状況であった。そこで終末期を含む在宅医療に取り組み始め、数年をかけようやくチームが熟成され、本人、家族の希望に添った穏やかな時間を提供できるようになってきた。一方で、看取りの文化を再興するべく対象地域だけでなく全国で講演を行い、医療関係者、行政、住民などに明るく伝えている。

それと並行して地域包括医療・ケアの実践の場として積極的に研修、視察を受け入れてきた。特に医学生、研修医には全人的な視点で、個人の健康問題のみならず家族背景や社会背景も踏まえた医療である“総合診療”を伝えてきた。そしてこの度、令和5年10月に新設された広島大学病院総合診療医センターのセンター長を拝命した。今後も広島大学、県内医療機関・教育機関、行政と協力して育成に努めたい。

招待講演〔県民公開講座〕

第1会場（1階 ホール） 15：30～16：00

座長 広島医学会会頭 松村 誠



「実在モデル（心臓外科医）が語る・ 映画「ディア・ファミリー」」

吉岡医院院長 吉岡 行雄

本年6月14日に劇場公開された映画「ディア・ファミリー」の主人公であるTMPの筒井宣政氏は、心臓病の娘さんを救う目的で独学で人工心臓の開発を始め、試作品までは完成したが臨床応用までには至らなかった。補助循環装置である大動脈内バルーンパンピング（IABP）は当時外国製しか無く、日本人にはサイズの不適合による合併症が発生していた。筒井氏はその合併症を克服すべく、人工心臓から国産のIABPの開発に転向した。当時東京女子医科大学で心臓外科医をしていた私は、この研究に参加した。小型のバルーンで動物実験を行い、日本人の体型に合致するバルーンのサイズを血管造影から計測し決定した。臨床用のバルーンで水槽内での耐久試験を行い、安全性を確認した上で臨床使用を開始した。最初は自分の大学内で使用し、その後、大学の関連病院から徐々に日本全国の大学病院や一般病院に広めていった。今回はこのIABPの開発の経過を講演する方針である。